

平成29年度第2回熊本県総合教育会議 議事録

日 時：平成30年3月15日（木）

午前11時から午後12時10分まで

場 所：審議会室（県庁行政棟本館5階）

出席者：蒲島 郁夫 知事、宮尾 千加子 教育長、木之内 均 教育委員、
堀内 忍 教育委員、吉井 恵璃子 教育委員、
櫻井 一郎 教育委員、吉田 道雄 教育委員

議 題：熊本県教育大綱に基づく施策の取組状況について

■蒲島知事挨拶

- ・今回の議事は、「教育大綱に基づく施策の取組状況」である。
- ・蒲島県政3期目が折り返しの時期にあたり、「『夢への架け橋』教育プラン」の計画期間も残り1年となったこの機会に、教育関係施策全体の進捗状況を見て、今後重点的に取り組むべき事項について考えてみたい。忌憚のない意見をお聞かせいただきたい。

■議事 教育大綱（前半）「子供たちの『夢』を育む（熊本の人づくり）」について

【事務局】

- ※ 資料3ページまでを説明。
(施策ごとに取組と成果、関係指標の動向、課題、今後の方向性・取組等を説明)

【吉田委員】

- ・「夢を実現するための“生きる力”の育成」について意見を述べたい。
- ・子供たちの“生きる力”の育成については、数十年前から言われていることであるが、私としてはぜひ教師自身が“生きる力”や“自ら学ぶ意欲”を持って、子供たちのモデルになってほしいと思っている。そういう教師を育てるような研修を実施してほしい。
- ・知事のように夢を語れるような人物あるいは夢を持った県内企業や団体に所属する適材に、学校を訪問してもらい、「夢の実現」に特化した授業を行ってほしい。また様々な機会に熊本を訪れる方々にサポートしてもらうのも良い。それぞれ地域の状況に応じて校種を越えた「授業＝行事」を組むことも考えられる。

【木之内委員】

- ・「ふるさとを愛する心を持つグローバル人材の育成」について意見を述べたい。
- ・さまざまな取組により、子供たちが海外へ行く機会等は増えているが、熊本県の実情としては、まだ多くの人々が海外に対して抵抗感を持っているようだ。
- ・教師や保護者や一般の県民が、子供たちに海外の魅力を伝えられるような施策、新しい工夫が必要だと思う。
- ・県内には外国から多くの技能実習生が来ているのだから、そうした人たちに学校教育や社会教育の中で、自分の国について語ってもらうような機会を持つなど。海外に対する抵抗感を、その辺りから変えていきたい。
- ・海外への理解の促進について、教育委員会だけでは幅が狭くなるので、知事部局と連携して取り組めれば良いと思う。

【蒲島知事】

- ・私もアメリカで農業研修生の時に、小学校で英語で話をした。アメリカの子供たちは、それによって違う世界があることを学んだのかなと思う。
- ・違う国の人を小学校等に呼んで、違う世界があることを話してもらおうという経験は、必要かと思う。

【櫻井委員】

- ・「自らの未来を切り拓き、社会に貢献できる人材の育成」について意見を述べたい。
- ・私の会社では、毎年10人ほど高校生の新規学卒者を採用していて、みんな社会に貢献したいという意識は持っているようであるが、仕事を通しての社会貢献という視点が少し足りないように思う。
- ・高校でのインターンシップや、中学校での職場体験は進んでいるが、さらに早い段階から仕事を知ってもらうために、小学校からの職場体験等も必要ではないか。
- ・しごとコーディネーターの取組は、平成28年度から2年間で、県内就職率向上という成果が出ている。取組を継続し、さらに県内企業の認知度向上を図りたい。また、熊本県地域人材育成連携協力協定を活かした取組により、実効性のあるインターンシップを実施していきたい。

■議事 教育大綱（後半）「『夢』を支える教育環境の整備」について

【事務局】

※ 資料4 ページ以降を説明。

(施策ごとに取組と成果、関係指標の動向、課題、今後の方向性・取組等を説明)

【堀内委員】

- ・「子供たちが安全・安心に学ぶことができ、信頼される学校づくり」について意見を述べたい。
- ・いじめ・不登校の増加は心の痛む問題である。熊本県では、SCやSSWの拡充・心のアンケートの実施等により、早期発見や解消につなげている。さらに、昨年9月からモデル校に導入した「いじめ匿名通報アプリ」により、子供たちの情報モラルの意識が上がってきているようである。
- ・菊池高校の「スマートアクティ部」では、SNSや情報モラルの取扱いについて、自分たちで検証し、保護者や先生への発信をしている。こうした活動が広がってほしい。教育委員会としては、子供たちの生きる力を信じて、子供たちを伸ばしていけるようなサポートをしていきたい。
- ・特別支援学校の整備に関して、入札不調により予定どおり進んでいない現状もあるが、昨日校名案が決まった「はばたき高等支援学校」の「はばたき」という言葉のように、困っている子供たちがより良い環境で学校生活ができるように、今後も協力していきたい。

【吉井委員】

- ・「家庭・地域・学校が連携・協力した、地域とともにある学校づくり」について意見を述べたい。
- ・家庭の教育力が低下していると言われていたが、それを補うのは間違いなく地域の教育力であると思う。
- ・私は伝統芸能の指導をしているが、その中でコミュニケーション能力をはじめ確実に成長していく子供たちを見てきた。地域と学校が一つになって子供を指導することが大事である。
- ・熊本地震でも、地域との関係が良好な学校は、避難所運営がスムーズに進んだ。普段から多くの大人が出入りする学校であってほしい。
- ・親でもない先生でもない（評価をする必要のない）近所のおじさん、おばさんとして、長い目で子供たちを見つめ続け、声をかけ続けてくれる存在であってほしいと思う。そんなあたたかい目があつてこそ、地域は子供たちの居場所となる。
- ・学校と地域の連携により、子供たちは地域を支える人材になり、地域の皆さんにとっては生きがいになり、先生にとっては負担軽減につながるという、一石三鳥の効果が生まれるのではと期待している。

【宮尾教育長】

- ・「貧困の連鎖を教育で断ち切り、子供たちの可能性を拓げる」について意見を述べたい。
- ・全国的には7人に1人が相対的貧困の状況にあり、特にひとり親世帯では約半分ぐらいが標準世帯の半分未満の収入で生活しているとされているが、これは熊本県でも概ね同様の傾向が示されており、深刻な課題と思っている。
- ・この問題について、知事には就任当初からリードしていただき、県独自のさまざまな施策も行っているが、さらに来年度から新たな給付型奨学金を創設したい。
- ・親の経済力が子供の意欲や学力に連鎖するという課題は、すぐに改善するようなことではなく、継続した取り組みが必要である。教育と福祉の連携はもちろん、親のサポートなど、社会全体として取り組む必要がある。オール熊本として、取り組んでいかなければならないと思う。

■全体を通して

【吉田委員】

- ・教師の意欲を上げるためにも、「働き方改革」を推進することで時間的な余裕を持たせる必要がある。研修は様々なものがあるが「研修のための研修」では意味がない。個々の内容を継続的に点検しながら、教師のモチベーションアップにつながるよう精選し続けていただきたい。
- ・例年、「子供たちが就きたい職業」の調査がある。職業をランク付けするのは慎重でなければならないが、子供たちが興味を持っている職業に就いておられる方々を招いて授業するといった試みがあって良いのではないか。
- ・学校は、子供たちの教育は地域と保護者等と一体になって進めることを大事にし、そのことを発信していただきたい。「ネバーエンディングチャレンジ」の精神で夢を求め続ける学校づくりに尽力してほしいと願っている。

【木之内委員】

- ・郡部には高森高校のように小・中・高連携した新しい取組により、素晴らしい教育をされている高校があるが、一方で郡部の学校の生徒は減ってきている。どうしても親も含めて受験生が熊本市内の高校を向いている現実がある。
- ・来年ぐらいから、産業界も人手不足で、本当の痛みが出てくるのではないかと感じている。
- ・地域の産業界と地元の高校が強い連携を図り、地域づくりなどを進めていくことが必要ではないかと思う。

【吉井委員】

- ・いじめ・不登校の問題とも関係するが、定時制・通信制の高校については、全日制の教育システムからこぼれる生徒が増えている中、その受け皿として必ず意味を持ってくると思っている。
- ・一方で、定時制・通信制にネガティブな印象を持つ人が多い。こうした印象を取り除き、定時制・通信制という一つの高校の学び方があるということ、多くの人に知ってほしい。
- ・そのために、全日制と定時制・通信制の高校生の交流や、制度面の充実、高校生の頑張りの発信等が必要になってくると思っている。

【櫻井委員】

- ・定時制・通信制については、生徒が昼間働くところを学校が見つめるようなケアも必要かと思っている。
- ・国立情報学研究所が「リーディングスキルテスト」を実施したところ、子供たちの35%から60%が、教科書に書かれているようなシンプルな文書を正確に読めないという研究がある。
- ・こうした研究や最新の教育について、教育委員会も幅広く勉強していく必要がある。

【堀内委員】

- ・先日NHKのテレビ番組で、不登校に睡眠障害が大きな関わりがあるという内容を放送していた。こうした新しい情報について、自分たちがいろいろな情報収集をして、現場の先生に伝えて、先生の負担軽減に繋がればと思っている
- ・子供たちがより良い学校生活を送るためには、先生たちにゆとりを持って子供たちのための実践をしてもらうことが大事であり、教師の働き方改革について自分たちも考えていく必要があると思っている。

■知事のコメント（閉会）

- ・本日は、皆様からの活発な御意見・御提案により、誠に有意義な会議だったと思う。
- ・私は、教育大綱の前文にも示されているように、子供たちの個性や能力に応じた多様な学びの場の提供、その可能性を大きく広げるための環境づくりが、とても重要だと考えている。
- ・本日の説明と、意見交換を踏まえて、今後「熊本の人づくり」分野の“グローバル人材の育成”、それから「教育環境の整備」分野の“貧困の連鎖を教育で断つ”取組みを更に力強く進めていきたい。
- ・今日のテーマは、個々に分かれているのではなく、全て繋がっているように感じた。子供たちに夢を持つことや、あるいはグローバル教育やキャリア教育を通じて、チャンスを与えることは教育の大きな役割である。一方で、貧困の連鎖を教育で断つことや、熊本地震からの復旧復興を進めることや、安全・安心な学校をつくることなどにより、チャンスを活かすための制約条件を少なくしていくことも教育である。その両面が関連していることが分かった。そういう意味で、教育の役割は非常に大きく、重要であると改めて認識した。